

旅行の目的地としての沼津市の魅力創出と情報発信

日本大学 国際関係学部 宍戸ゼミナール

指導教員：教授 宍戸学

参加学生：3年 小林萌奈未、日吉航、小川諒太、川口英大、
望月亜沙美、吉村心、趙敏、他ゼミ生協力

1 要約

沼津市と宍戸ゼミは、2021年度から沼津市の観光活性化に取り組み、2024年度は「旅行の目的地としての沼津市の魅力創出と情報発信」に2つの研究チームで取り組んだ。「旅行ビジネスユニット」は、インバウンドを対象とする観光情報発信として、①英語版バーマップと、②インバウンド向けの体験型ツアーを実施した。「地域観光ユニット」は、③原・戸田地区の観光まちづくりを研究し、地域イベントへの参加や、④観光PR動画による情報発信を行った。

以上の4つの活動に加え、本学部祭で来訪者に観光の魅力を発信し、認知度や関心の調査を行った。今年度の最後に、関係者に報告会を開催する予定である（3月）。

2 研究の目的

本研究では、旅行ビジネス・地域観光の2つの研究チームが、若者目線から旅行の目的地としての沼津市の魅力創出と情報発信に向けて取り組み、その結果を検証する。沼津観光は、港エリアやアニメツーリズムが有名であるが、その他の地域や観光資源の活用が進んでいないため、有名エリア外の観光資源の発掘や磨き上げに努め、その魅力を発信する。

3 研究の内容

(1) 旅行ビジネスユニット（研究チーム）

沼津市では、外国人観光客が多いことを踏まえ、バーや居酒屋などを紹介する英語マップを作成し、配布した。マップを通じて地域の魅力を発信することを試みた。

また、静岡県東部地域コンベンションビューローとの関わりで、沼津市開催の国際会議（100人規模）を支援し、三島市にて外国人向けの英語ツアーを行い、沼津市だけでなく、広域で周遊する魅力づくりを行った。

(2) 地域観光ユニット（研究チーム）

沼津市原地区を中心に活動拠点を置き、地域活性化に取り組んだ。原地区と戸田地区の現地調査を重ねて観光PR動画を作成し、沼津市の魅力を発信することで地域活性化に貢献している。地域の食イベントなどのイベントにも参加し、模造紙等で研究活動の報告を行うことで沼津市の観光資源の魅力と沼津市を拠点に地域活性化活動を行っていることを十分にアピールした。また、沼津市商工会で行われる定例会に出席し、観光における地域活性化方法について地元住民に提案した。

4 研究の成果

〈旅行ビジネスユニット〉

(1) 当初の計画

沼津市で蛇松緑道を活用した地域活性化に取り組む。視察や調査を通じて緑道の魅力を発掘し、新たなコンテンツやイベントを企画・実施する。また、『ラブライブ!』をテーマにしたマンホールを巡るツアーを計画し、地域の観光資源として活用することを目指した。取り組みの過程や成果はSNS等で発信し、地域の魅力を広く伝えることを目指した。

(2) 実際の内容 B：修正

1) 沼津市のバーマップの作成

現地視察や沼津観光協会との議論を経て、バー、ワインバー、居酒屋を英語で紹介するマップを作成した。マップは学生目線で厳選した店を取材して、内容の収集からデザイン、地図の作成、英語文章の作成まで、ゼミのメンバーと学内の教授らの協力で作業を進めた。10,000部発行し、沼津市内の12件のホテル等に配架する。



図1 沼津観光協会から情報収集する様子

図2 英語版バーマップ（左：表裏面 右：中面）

2) 広域でのインバウンド対応の取り組み

外国人向けに英語によるミニツアーを実施した。このツアーは、静岡県東部地域コンベンションビューローとの関わりで実施され、沼津市のプラサヴェルデで開催された第35回太陽光発電科学技術会議の参加者約10名を対象に行われた。沼津市から三島市へと周遊すること想定して実施され、ツアーは約3時間のコースで、三島駅を起点に①楽寿園、②源兵衛川、③三嶋大社、④白滝公園を巡り、インバウンドが興味を持つ内容で、三島市の魅力を紹介し、好評を得た。

3) 学園祭での活動

模造紙を用いて沼津市のバー文化やバーマップを紹介し、来訪者にアンケートを実施した。この活動を通じて、バー文化に対する認知度を高めるとともに、マップの完成に向けたフィードバックを収集した。

(3) 実績や成果

三島市で実施した英語によるミニツアーでは、観光スポットを効果的に紹介することができた。特に、源兵衛川では水中の石を利用し、希望者が裸足で川を渡る体験を提供するなど、体験型のプログラムを取り入れたことが好評だった。また、三嶋大社では、日本独自の参拝方法やお清めの体験に加え、和菓子を楽しむアクティビティを実施し、参加者から高い評価を得ることができ、満足度の高いツアーを実現することができた。



図3 三島ミニツアーの様子

沼津市の英語版バーマップにおいては、「ナイトタイムエコノミー」をテーマとしており、市内の夜間経済を活性化させることを目的としている。訪問者が単なるバー巡りにとどまらず、特色ある体験を通じて沼津の魅力を知ってもらえるよう、ビリヤードが楽しめる店舗やシーシャを提供する店舗など独自の特徴を持つバーを掲載した。

学園祭では模造紙を使った沼津市内のバーマップの展示を行い、「写真を撮ってもよいか」という声が寄せられるほど多くの来場者から関心を集めた。これらの活動を通じて、三島市や沼津市の魅力を効果的に発信し、地域の認知度向上に寄与することができた。

(4) 今後の改善点や対策

活動初期には、具体的なプロジェクトをなかなか構想できず、ミーティングを繰り返すだけ

で進展が見られない状況が続いた。この反省を踏まえ、活動の年間計画を綿密に立て、具体的に何を企画するのかを明確にする必要がある。しかし、インバウンドへの対応は大きな成果をあげられたと考える。また、住民の声を十分に拾い上げることができなかった点も課題である。住民が抱える課題や地域への思いを聞き取り、それを反映したプロジェクトを生み出す必要があると考える。

〈地域観光研究チーム〉

(1) 当初の計画

沼津市原地区で調査を行い、旧東海道付近の観光地をめぐるパンフレットを作成し原地区の魅力を発信する。また、原地区の寺社を巡るスタンプラリーを作成し、スタンプラリーのイベントを開催する。取り組みの過程と結果をSNSで発信する。

(2) 実際の内容 B: 修正

1) 沼津市の観光プロモーション活動について

実際に沼津市を何度も調査し、沼津市の原地区、戸田地区の観光プロモーション動画を作成した。昨年度まではパンフレットを作成し紙媒体で沼津市の魅力発信を行っていたが、本年度はより多くの人々の目にとめてもらえるよう動画を作成し、ゼミのインスタグラムやフェイスブック等のSNSでの情報発信を行った。動画は原地区と戸田地区の観光地をめぐる1泊2日の旅を想定して作成し、学生目線としての沼津の旅を提案した。



図4 原・戸田地区の観光PR動画

2) 地域イベントの参加

原地区のイベントである「はら逸品うまいものフェス」に参加し、原地区の観光地やゼミの研究活動の紹介を模造紙にまとめ、展示した。原地区に関するクイズや住民の声を聞くアンケートを実施し、実際に現地に住む方々とコミュニケーションを図った。イベント当日に行われていたFMラジオ公開生放送にも出演し、原地区のPRを行った。

3) 学園祭での活動

原地区の観光地やゼミの研究活動の紹介を模造紙にまとめた。原地区に関するクイズやアンケート調査を行い、原地区の認知度向上に向け観光地としての魅力を発信した。原地区の紹介は旅行記のようなイメージで作成し、若年層に興味を持ってもらえるように工夫した。

4) 定例会への参加

原地区の観光活性化プロジェクトチームが行う定例会に参加し、観光での活性化のために具体的に何をすべきなのかを学生目線の意見として提案した。

(3) 実績や成果

今回の活動を通して地元住民にもそれ以外の人々にも沼津市の観光資源の魅力を伝えることができたのではないかと考える。

観光プロモーション活動では、動画で発信することで視覚と聴覚を使って発信することを可能にし、さらに不特定多数の人々の目につきやすく拡散力の高いSNSで発信することで、より多くの人に沼津市の魅力を発信するとともに交流人口の創出を促すことを試みた。大学生の旅をイメージして作成したため、若年層に向けたプロモーションを行うことができた。

学園祭や地域イベントでの模造紙展示では、地元住民も知らない原地区の豆知識を発表の中に盛り込むことに加え、クイズを実施することで能動的に原地区について興味を持ち、理解が深まるよう努めた。展示ブースに来た方々からは「興味を持った」などの評価を多くいただき、模造紙展示を通して原地区の観光資源を発信することができた。



図5 地域イベントの様子

(4) 今後の改善点や対策

年間を通じた計画を綿密に立てられなかったことが改善点である。対策としては明確なゴールの設定と定期的に計画を見直し、進捗や成果を正しく評価することが重要である。また、ゼミ生間でのコミュニケーションを活発化させ情報共有に齟齬がないように努めることも大切である。

5 課題提出者、地域への提言

沼津市が観光地として更なる活性化を目指すためには、新たな地域資源や魅力を発信することが重要である。現在、沼津市は『ラブライブ!』等のアニメを活用した観光事業を中心に展開している。しかし、アニメ人気の持続性は確実なものではなく、関連する観光需要が減少すると、沼津市の観光客数減少に大きく影響してしまう。沼津市が持続可能な観光地となるためにも、1つのコンテンツに頼りすぎず食文化や自然景観など、地域本来の魅力を強化し、発信することが求められる。

また、急増するインバウンドへの対応するコンテンツの充実も急務である。これらの観光資源の発掘と磨き上げには、地域の特性を活かしながら観光客と地域住民が共に満足できる仕組みを作ることが求められる。観光の専門家や若い世代である学生などの参画により、地域の魅力を第三者視点で発掘するとともに、地元住民との対話を通して住民にとって「当たり前」になっている風景や文化に観光価値を見出す必要がある。行政、事業者、地域、観光の専門家全員が一緒になって観光を考えることで、「住んでよし、旅してよし」の沼津をつくることができると考える。

6 課題提出者・地域からの評価

本年度は2つの研究チームが沼津市の課題となっている市内全域への周遊性の向上に向けて研究を行ってくれた。

旅行ビジネス研究チームは、英語版沼津市バーマップの作成、英語でのミニツアーの開催とインバウンド誘客に向けた地域の魅力創出として、非常に有効なものとなっており、沼津市が課題として挙げていた魅力強化とインバウンドに応えるものであった。

地域観光研究チームについても、原地区、戸田地区の観光PR動画の作成を行ってもらったことで中心市街地から離れた2地区の魅力創出につながるものであった。

また、SNSを中心とした情報発信は若年層へのリーチにも効果的なものであると考える。

行政ではなしえない大学生独自の感性による2チームの取り組み及び研究に基づいた提言に感謝申し上げる。